

2020年度 北海道大学大学院  
文学院修士課程入学試験（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input checked="" type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（映像・現代文化論） <input type="checkbox"/> 共通外国語（）
出題の意図	<p>問題Ⅰ 映像・現代文化、日本近現代文学・思想に関する基本的な知識を問う。</p> <p>問題Ⅱ 映像・現代文化、または日本近現代文学・思想に関する論文を読解し、自分の意見を論述することにより、専門分野に関する理解力と表現力を問う。</p> <p>(A) 日本戦後詩をきっかけにした、「日本型自然主義／私小説」をめぐる批判に関する問題</p> <p>(B) 女優マリリン・モンローの作中の表情と「シネマ」の関係性に関する問題</p>

2020年度  
北海道大学大学院文學院修士課程入学試験問題（後期）  
（専門試験） 映像・現代文化論 全7枚のうち1枚目

この試験では、試験問題7枚、解答用紙4枚を配付する。

- ・ 解答は問題Ⅰと問題Ⅱについて、別々の解答用紙に記入すること。
- ・ 問題Ⅱは、A・Bの中から一つを選んで解答すること。

---

問題Ⅰ

次の1～6の中から二つを選択し、選択番号を明記した上で解答しなさい（各400字程度）。

1. 耽美派の文芸思潮に果たした森鷗外の役割について、複数の作品に触れて概説しなさい。
2. 盛り場としての浅草を描いた1930年前後の小説作品を複数挙げ、その文芸的特徴を略述しなさい。
3. 1970年代の日本のSFの隆盛について、作家・作品名を挙げて説明しなさい。
4. GHQの映画政策の影響を受けた戦後の日本映画について、複数の作品名を挙げて述べなさい。
5. 「ドキュメンタリー・タッチ」と呼ばれる映画の技法的な特徴とは何かを概説しなさい。
6. フランソワ・トリュフォーの「ドワネルもの」における作中人物・俳優・監督の三者の関係について述べなさい。

問題Ⅱ A

次の文章は、田口麻奈『〈空白〉の根底 鮎川信夫と日本戦後詩』（思潮社、2019年）の一節である（一部表記を改めた箇所がある）。（1）この文章を250字程度に要約し、（2）「日本型自然主義／私小説」をめぐる批判について、日本近代文学史をふまえて考えを述べなさい（800字程度）。

\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 田口麻奈『〈空白〉の根底 鮎川信夫と日本戦後詩』、思潮社、2019年、408-412頁。





問題Ⅱ B

次の文章は、『ヴィジュアル・クリティシズム 表象と映画＝機械の臨界点』（中山昭彦編、玉川大学出版部、2008年）の一節である（一部表記を改めた箇所がある）。（1）この文章を250字程度に要約し、（2）女優の、あるいは俳優の「表情」と「シネマ」の重層的関係性について、具体的な事例を挙げて論じなさい（800字程度）。

\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 中山昭彦編『ヴィジュアル・クリティシズム 表象と映画＝機械の臨界点』、玉川大学出版部、2008年、2-6頁。



